

令和5年度

第43回 中国地区公立学校教頭会研究大会（島根大会）

第35回 島根県公立小中学校教頭会研究大会（出雲大会）

# 大会集録

研究主題

「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」

～ふるさとを学びの原点に、自立、協働、創造していく心豊かな子どもの育成～



**開催期日** 令和5年11月10日（金）

**開催地** 島根県出雲市

中国地区公立学校教頭会・島根県公立小中学校教頭会



# 目 次

## 記録写真

|                |   |
|----------------|---|
| 島根大会を終えて ..... | 1 |
|----------------|---|

|            |   |
|------------|---|
| 開催要項 ..... | 2 |
|------------|---|

|            |   |
|------------|---|
| 基調提案 ..... | 3 |
|------------|---|

|              |   |
|--------------|---|
| 記念講演概要 ..... | 6 |
|--------------|---|

## 分科会

|               |   |
|---------------|---|
| 提言テーマ一覧 ..... | 7 |
|---------------|---|

|                      |   |
|----------------------|---|
| 指導助言者・提案者・役員一覧 ..... | 8 |
|----------------------|---|

## 分科会概要・記録

|                        |   |
|------------------------|---|
| 第1分科会 教育課程に関する課題 ..... | 9 |
|------------------------|---|

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 第2分科会 子どもの発達に関する課題 ..... | 10 |
|--------------------------|----|

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 第3分科会 教育環境整備に関する課題 ..... | 12 |
|--------------------------|----|

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 第4分科会 組織・運営に関する課題 ..... | 14 |
|-------------------------|----|

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 第5分科会 教職員の専門性に関する課題 ..... | 16 |
|---------------------------|----|

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| 第6分科会 副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題 ..... | 18 |
|-----------------------------------|----|

|                          |    |
|--------------------------|----|
| ふりかえり・まとめ（アンケート結果） ..... | 20 |
|--------------------------|----|

|                     |    |
|---------------------|----|
| 大会役員・大会実行委員一覧 ..... | 22 |
|---------------------|----|

|            |    |
|------------|----|
| あとがき ..... | 23 |
|------------|----|





開会行事全体風景



大会実行委員長挨拶 (後藤)



中国地区公立学校教頭会会長挨拶 (原田)



全国公立学校教頭会副会長挨拶 (松野)



大会実行委員長、研究部長（島根県）、大会副会長、中国地区公立学校教頭会会長



全国公立学校教頭会副会長・研究部員、山口県会長、岡山県会長、鳥取県会長、山口県研修部長、岡山県研修部長、鳥取県研究部長





記念講演「子どもたちの未来に求めるもの ～外国語教育と異文化交流を通して～」ダスティン・ジョン・キッド先生



第1分科会「教育課程に関する課題」



第2分科会「子どもの発達に関する課題」



第3分科会「教育環境整備に関する課題」



第4分科会「組織・運営に関する課題」



第5分科会「教職員の専門性に関する課題」



第6分科会「副校長・教頭の職務に関する課題」



## 挨拶

中国地区公立学校教頭会

会 長 原 田 淳

第43回中国地区公立学校教頭会研究大会（島根大会）並びに第35回島根県公立小中学校教頭会研究大会が中国各県より参集273名、オンライン239名、合計512名の会員をお迎えして盛大に開催できましたことを心より感謝申し上げます。

また、本研究大会を開催するにあたりまして、山口県教育委員会、岡山県教育委員会、鳥取県教育委員会、島根県教育委員会、出雲市教育委員会、雲南市教育委員会、全国公立学校教頭会をはじめとする関係諸機関・諸団体の皆様から多大なるご支援をいただきましたことに、深くお礼申し上げます。

さて、本研究大会は全国統一研究主題第13期「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」（キーワード：自立・協働・創造）の1年次を受けて、「ふるさとを学びの原点に、自立、協働、創造していく心豊かな子どもの育成」をサブテーマとして副校長・教頭としての在り方を追究しました。令和2年1月からの新型コロナウイルス感染症の流行中に培ったノウハウを活かし、昨年度の鳥取大会に続きハイブリッド開催としました。島根県内の会員を参集、島根県外の会員の方を参集・オンラインの参加とすることで、限られた人数ではありますが令和元年度以来4年ぶりに県外の会員の方とも直接顔を合わせて学びを深める場を設けることができました。

記念講演では島根大学教育学部講師のダスティン・ジョン・キッド氏をお招きし、「子どもたちの未来に求めるもの ～外国語教育と異文化交流を通して～」と題してご講演いただきました。出雲市をはじめ県内の外国語教育と異文化交流に深くかかわってこられたキッド先生からは、「地元が好きな子」「失敗から学び、その過程を生かす子」を育てることの大切さや、各校区に伝わる伝承などを生かした教育課程などについて貴重なお話を賜り、学校経営の在り方について考えるよい機会となりました。

午後の分科会では全国共通研究課題「教育課程」「子どもの発達」「教育環境整備」「組織・運営」「教職員の専門性」「副校長・教頭の職務内容や職務機能」に関する課題について6分科会に分かれて各県からの11の先進的な取組をご提案いただき、協議をしました。それぞれの分科会では活発な意見交換、他県・各地域の取組などの情報交換がなされました。

先般発表された、中教審答申にある「令和の日本型学校教育」の構築にあたって指摘されている、ICTの利活用、働き方改革等の課題に加え、各学校の実態をふまえた諸課題など多くの課題を抱えながら、私たちは日々の業務にあたっています。このような状況の中、記念講演・分科会で得た情報は、各会員の日々の取組を振り返る機会となり、今後の業務に活かされるものであったと感じております。

ここに、本研究大会をまとめた「大会集録」が完成しました。会員の皆様が各校の課題に対処するにあたり、貴重な実践が載っている本誌が活用されることを願っております。

結びになりますが、実行委員会の皆様をはじめ、本研究大会を支えてくださったすべての皆様に深く感謝申し上げますとともに、中国公立学校教頭会のますますの発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

# 開催要項

## 研究主題

# 「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」

～ふるさとを学びの原点に、自立、協働、創造していく心豊かな子どもの育成～

●期 日 令和5年11月10日（金）

●日 程

|      |              |       |       |          |              |          |       |
|------|--------------|-------|-------|----------|--------------|----------|-------|
| 9:30 | 10:00        | 10:30 | 10:40 | 12:00    | 13:00        | 15:30    | 15:40 |
| 受付   | 開会行事<br>基調提案 | 休憩    | 講演    | 昼食<br>移動 | 分科会<br>(参加型) | 閉会<br>行事 |       |

●会 場

〈全体会〉 出雲市民会館

〈分科会〉 出雲市民会館

ニューウェルシティ出雲

●記念講演

演 題 「子どもたちの未来に求めるもの ～外国語教育と異文化交流を通して～」

講 師 島根大学教育学部講師 Dustin John Kidd (ダスティン・ジョン・キッド氏)

●主 催

中国地区公立学校教頭会 島根県公立小中学校教頭会

●後 援

|                    |          |           |          |
|--------------------|----------|-----------|----------|
| 山口県教育委員会           | 岡山県教育委員会 | 鳥取県教育委員会  | 島根県教育委員会 |
| 雲南市教育委員会           | 出雲市教育委員会 | 島根県小学校長会  | 島根県中学校長会 |
| 島根県教育研究会           | 雲南市校長協議会 | 出雲市小学校長会  | 出雲市中学校長会 |
| 財団法人日本教育公務員弘済会島根支部 |          | 島根県教職員互助会 |          |



# 基 調 提 案

---

## 1 研究主題

### 未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり

～ふるさとを学びの原点に、自立、協働、創造していく心豊かな子どもの育成～

## 2 研究主題について

国際社会が激動し、超スマート社会の実現が目の前に迫っている今日、AIやビッグデータをはじめ身の回りのものが急速にデジタル化されてきている。これらによってわたしたちの生活が大きく変化することにより生じる、先を見通すことが困難な世の中を生き抜く子どもにどのような力を育んでいけばよいのか、そのための副校長・教頭の役割はいかにあるべきかが問われる時代となっている。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るったこの3年間を振り返ると、これまで当たり前だと思っていたことがそうでなくなり、「新たな生活様式」という言葉とともにわたしたちの日常生活が大きく変化した。その最たるものが急速なデジタル化への移行であると考え。お互い遠くにいながらにしての会議、在宅ワークの日常化、電子決済の普及と、人と人とのやり取りをはじめとしてあらゆることが電子機器等を通して遠隔で行うことができるようになった。また、生成AIが登場し、AIによる文書作成や画像作成も容易にできるようになった。先般、文部科学省より子ども向けの生成AIガイドラインが公表されたが、今後、学校教育での活用についてさらに議論がなされていくことになる予想されている。

学習指導要領により「主体的・対話的で深い学び」「社会に開かれた教育課程」等が言われて久しいが、各学校においては、日々その実現に向けて学校運営や授業改善が行われている。学校教育においては、GIGAスクール構想により一人一台端末が配付され、子どもたちの学び方はもちろんのことわたしたちの指導方法も大きく変わり、教師の指導観の変革が求められている。令和の日本型学校教育にうたわれている「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現を目指し、一人一人の子どもの実態をとらえ、個に応じた指導への転換を図るとともに、話し合い活動等を通じた深い学びをいかに実現していくか、そこにどのように一人一台端末を活用していくか、わたしたちに課せられた大きな課題の一つである。

このような中にあり、わたしたちには、子どもたちに「未来を切り拓く力」をいかに育てるのか、そのための「魅力ある学校づくり」にどう取り組んでいくのか、教職員が力を合わせ、チームとして実践していく必要がある。全国的に教員不足が叫ばれており、年代別の教員人口を見ても、ミドルリーダになるべき年代の教員の比率が低くなっている。このことにより円滑な学校運営や若手教員への指導技術等の伝達がなされなくなることがないように、副校長・教頭として働き方改革とバランスを取りながらより良い学校運営を推進していく必要がある。

今年度は、全国公立学校教頭会第13期全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」の1年次にあたる。今日の教育を取り巻く状況等を鑑みながら、これまで積み重ねられてきた実践をさらに進化発展させ、研究主題の実現を果たすことがわたしたち副校長・教頭の責務であると考え。

最後に、今大会において研究主題の実現に向けた各県の実践を紹介いただくことで、わたしたちは「自分がしたいことは何か」「自分にできることは何か」を考え、各校に持ち帰り日々の実践を積み重ね、第13期初年度の研究を推進していく所存である。



### 3 サブテーマについて

開催地である島根県は、各地域に豊かな自然、歴史・伝統、文化、産業があり、子どもたちの身の回りにある地域資源を活用したふるさと教育に積極的に取り組んでいる。地域での実体験や多様な人々との交流、対話的な学びを通した身近な地域の人々とのかかわりは、学ぶ意欲や実践力を高め、思いやりの心の育成にもつながっている。

サブテーマの「ふるさとを学びの原点に」とは、島根県が取り組む「教育の魅力化」を推進することであり、ふるさとへの愛着と誇りを持ち、子どもたち一人一人が学びに向かう意欲を高め、「生きる力」を育んでいくことである。そこで、ふるさと島根のもつ強みを生かしながら、各学校・地域の特色に応じて教育活動をどう展開していくか。具体的には、「①豊かな自然・歴史・伝統・文化といった地域それぞれの魅力や教育資源（ひと・もの・こと）を生かす、地域に開かれた教育」「②学校・家庭・地域が一体となり、子どもたち一人一人の魅力や個性を伸ばし、自己実現を支援する、主体性と多様性を尊重する教育」「③温かな人とのつながりや勤勉で粘り強い県民性を生かし、子どもも大人も共に学び続ける、対話的・探究的な教育」を実践していくことである。自分が生まれ育った地域を知り、直接経験することの中から、自分の住む地域を誇りに思う気持ちや自分を肯定的に捉えようとする気持ち（自己肯定感）が高まり、ふるさとを愛する子どもが育つと考える。

「自立、協働、創造していく」とは、生涯にわたって自ら考え学ぶこと、様々な問題を解決するために他者と協力して取り組むこと、これまでの経験をもとに自分のしたいことやすべきこと、将来について深く考えることを表している。これからの子どもたちには、社会の変化に適応するだけでなく、自らが自立して主体的に社会とのかかわり、新たな価値を創造し、将来を創り出すことが求められる。そのためには、予測不可能な状況の中においても、問題となるものを見つけ、自ら「問い」を立ててその解決に向け、多様な人々と協働しながら、様々な資源を組み合わせ解決に導いていく力が必要となる。これらの探究的な学びを通して、心豊かな子どもを育てていきたい。

以上のことをふまえ、サブテーマを「ふるさとを学びの原点に、自立、協働、創造していく心豊かな子どもの育成」とし、魅力ある学校を創っていくために、わたしたち副校長・教頭が家庭・地域・教職員とどのようにかかわり、具体的に働きかけていくのか、追究していきたい。

### 4 研究の基本方針

副校長・教頭として日々実践していることを基に、どのような具体的方策や取組が有効であるか、「継続性」「協働性」「関与性」に焦点を当てた実践研究を通して明らかにしていく。

#### (1) 学校教育の課題の解決に努める

本研究は、保護者や地域の期待に応え、教育基本法及び学校教育法等の諸法規に定められた教育の目標を達成することを究極の目的とする。そのために自ら職能を高め、学校現場が抱えている課題の解決に努める。

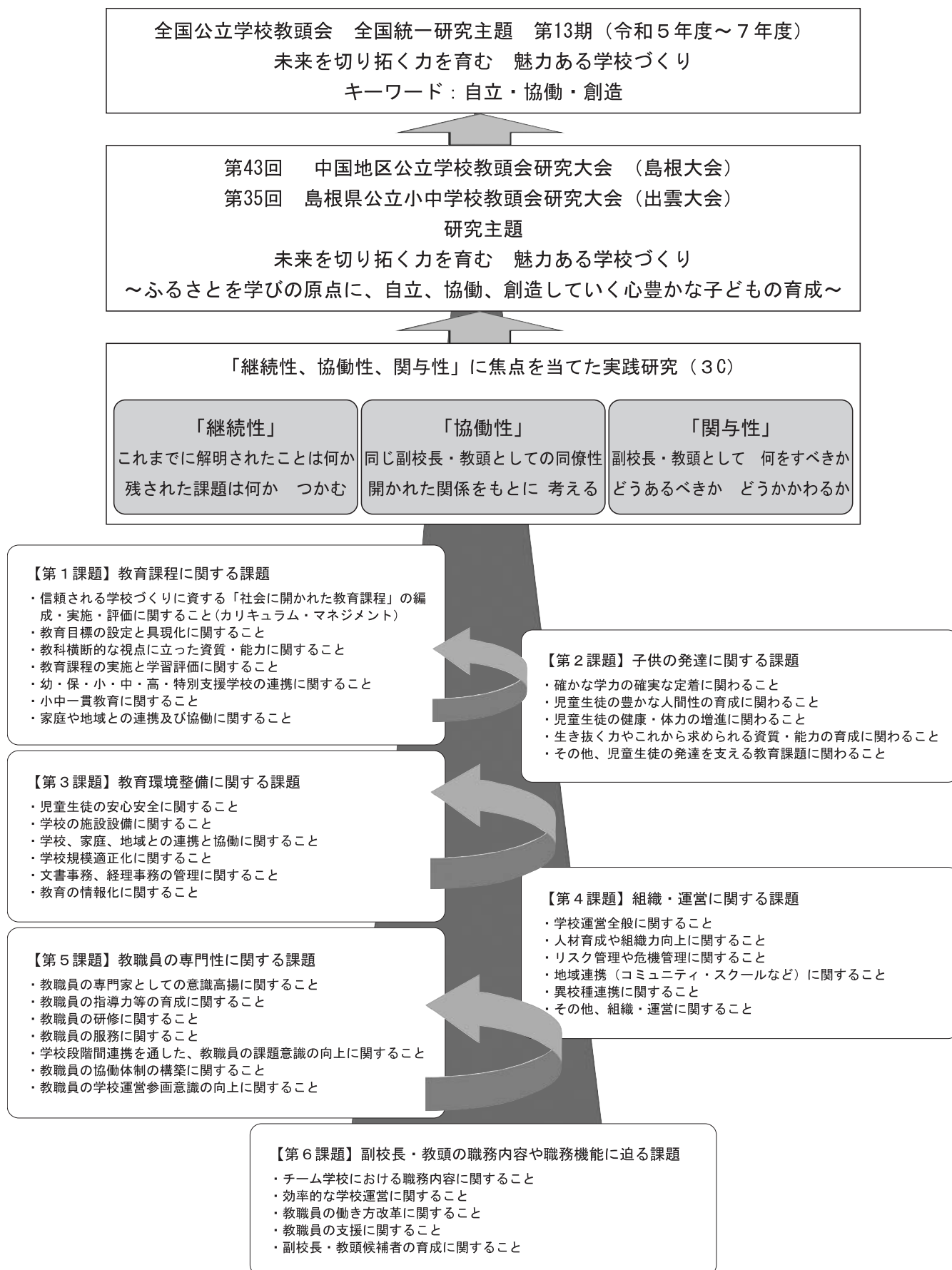
#### (2) 副校長・教頭の職務内容や職務機能を追究する

学校運営において副校長・教頭として、校長や教職員とのかかわりを大切にし、自らの職務内容を実践的に追究するとともに、職務機能の充実を図る。

#### (3) 研究成果を政策提言活動（要請活動）に生かす

調査部による調査や研究活動・研究成果を生かした政策提言活動を基軸とし、学校教育を取り巻く環境の整備に役立てていくよう努める。

## 5 研究の全体構想



# 記念講演概要



## 演 題

「子どもたちの未来に求めるもの  
～外国語教育と異文化交流を通して～」

講 師 Dustin John Kidd (ダスティン・ジョン・キッド氏)  
島根大学教育学部講師

1977年米国アイダホ州生まれ。1998年交換留学で島根県へ来県する。その後、島根県内のALT、北海道や島根県の中学・高等学校での英語教師、島根県立大学短期大学部の准教授を経て現職に至る。松江市の英語版案内パンフレットの編集、古事記編纂1300年の島根県の事業の一環として英語ホームページの作成、縁結び観光協会の英語パンフレットの作成など、島根県内の歴史や文化についての海外発信にも携わっている。

## 記念講演の概要

気が付けば、人生の半分以上を日本で過ごしておられるキッド先生。「やりたいことをやりなさい」という親の一言で日本へ交換留学生として来日。そこで感じた日本の教育現場について、日本文化の魅力について、熱心にご講演いただいた。

### 学校で完璧にいる必要はない。そう考えるともっと楽になる。

外国語教育では「通じた!」という喜びを体験してほしい。先生方もALTと積極的にやり取りをして、子どもたちの憧れの存在になるとよい。外国語教育を進めていく上でのネックは「失敗を恐れること」にある。本来、学校とは失敗をしてもよいところであり、安心・安全なところである。「間違えたらどうしよう」「失敗したらどうしよう」というネガティブな思いが様々なスキルアップを妨げているかもしれない。「学校で完璧にいる必要はない」そう考えることで子どもたちも楽になり、伸び伸びと学べるのではないだろうか。学校生活における失敗体験や試行錯誤をぜひ次につなげていってほしい。そして、社会生活に活かしていってほしい。

### 校区には必ず何かしらの「物語」が存在する。それを見つけること。

英語で観光ガイドをする授業を大学でやっているが、学生に伝えているのは、まず自分が「好きだ」「面白い」と思うことを見つけることから始めるということである。好きになると楽しく語れる。楽しく語ると魅力が相手にも伝わる。

私たちが勤務するそれぞれの校区には、必ず何かしらの「物語」がある。子どもたちから聞くのもよい。校区が自分の故郷なら地域の好きなところを子どもたちに伝えること。故郷でない校区なら、地域に対する興味を見せること。教師自らが学ぶ姿勢を見せることが大切である。

日本とアメリカ合衆国の学校教育や文化の違い、ご自身の日本での生活から感じられた教育への思いや願いを忌憚なく語っていただいた。私たち学校教育に携わる者にとって、大変参考になる内容であった。



# 分科会提言テーマ一覧

| 分 科 会  | 提 言 内 容   | 提 案 者  |
|--|---|--|
| 第 1 分科会<br>教育課程に<br>関する課題                    | (鳥取県)<br><b>幼保小の連携による円滑な接続のための教育課程編成</b><br>～幼保小接続推進リーダー育成事業の取組を通して～                  | 加藤 倫<br>鳥取市立面影小学校                            |
|  | (島根県)<br><b>地域の特性を活かした特色ある教育活動の推進と教頭の役割</b><br>～保小中における組織的な連携とふるさと教育の取り組みを通して～        | 大濱 雪美<br>隠岐の島町立五箇小学校<br>永海 伸高<br>隠岐の島町立五箇中学校 |
| 第 2 分科会<br>子どもの発<br>達に関する<br>課題              | (鳥取県)<br><b>関わり合い、思いを重ねながら創造する子どもの育成</b><br>～こ小中連携とコミュニティ・スクールの取組を通して～                | 中川 由紀子<br>北栄町立北条小学校                          |
|  | (島根県)<br><b>学校図書館活用教育の推進に関わる教頭の役割</b>   | 永見 英郎<br>浜田市立第四中学校                           |
| 第 3 分科会<br>教育環境整<br>備に関する<br>課題              | (岡山県)<br><b>持続可能な地域連携・協働するための教頭の役割</b><br>～学校運営協議会・地域学校協働活動を中心として～                    | 池上 宗一郎<br>浅口市立寄島小学校                          |
|  | (島根県)<br><b>『教育の魅力化』を持続的に推進する校務DX確立のための学校間協働</b>                                      | 松田 淳<br>益田市立小野中学校                            |
| 第 4 分科会<br>組織・運営<br>に関する課題                   | (岡山県)<br><b>学校運営協議会と地域学校協働活動の運営をスムーズにするための取組</b><br>～真庭支部全体での I C T 活用をとおして～          | 小川 誠<br>新庄村立新庄中学校<br>木村 俊弘<br>真庭市立湯原中学校      |
|  | (島根県)<br><b>市内小中学校の連携による組織的な授業改善に向けた取組</b><br>～能力ベースの授業づくりの実施に向けて、大田市教頭会としての<br>の関わり～ | 土井 善浩<br>大田市立大田西中学校                          |
| 第 5 分科会<br>教職員の専<br>門性に関す<br>る課題             | (山口県)<br><b>未来をたくましく生き抜く子どもを育む魅力ある学校づくり</b><br>～自立した学習者の育成と教頭の関わり～                    | 吉谷 亮<br>美祢市立厚保小学校                            |
|  | (島根県)<br><b>持続可能な研究・研修の在り方を考える</b><br>～主体的に学び続ける教職員チームをめざして～                          | 西村 勝美<br>松江市立美保関中学校                          |
| 第 6 分科会<br>副校長・教<br>頭の職務内<br>容や職務機<br>能に迫る課題 |   |  |
|  | (島根県)<br><b>効率的で働きがいのある学校運営における教頭の役割</b><br>"つなぐ・支える"をキーワードとして                        | 須藤 貴行<br>江津市立江津東小学校                          |

# 分科会（指導助言者・提案者・役員一覧）

| 第1分科会「教育課程に関する課題」 |                      |       |  |
|-------------------|----------------------|-------|--|
| 会 場               | 市民会館 2F「202多目的室」     |       |  |
| 指 導<br>助言者        | 島根県教育庁教育指導課調整監 小室 淑子 |       |  |
| 提案者               | 鳥取県 鳥取市立面影小学校        | 加藤 倫  |  |
|                   | 島根県 隠岐の島町立五箇小学校      | 大濱 雪美 |  |
|                   | 島根県 隠岐の島町立五箇中学校      | 永海 伸高 |  |
| 司会者               | 島根県 海士町立海士中学校        | 道川 一史 |  |
| 記録者               | 島根県 出雲市立向陽中学校        | 川瀬 達雄 |  |
| 運営係               | 島根県 出雲市立平田中学校        | 佐藤 忠司 |  |

| 第2分科会「子どもの発達に関する課題」 |                                |       |  |
|---------------------|--------------------------------|-------|--|
| 会 場                 | ニューウェルシティ 2F「牡丹A」              |       |  |
| 指 導<br>助言者          | 島根県教育庁教育指導課<br>指導主事(兼)企画幹 橋本 憲 |       |  |
| 提案者                 | 鳥取県 北栄町立北条小学校                  | 中川由紀子 |  |
|                     | 島根県 浜田市立第四中学校                  | 永見 英郎 |  |
| 司会者                 | 島根県 浜田市立原井小学校                  | 河村 恭子 |  |
| 記録者                 | 島根県 出雲市立国富小学校                  | 福田 秀治 |  |
| 運営係                 | 島根県 出雲市立灘分小学校                  | 岡村 朗  |  |

| 第3分科会「教育環境整備に関する課題」 |                  |        |  |
|---------------------|------------------|--------|--|
| 会 場                 | ニューウェルシティ 2F「百合」 |        |  |
| 指 導<br>助言者          | 松江教育事務所調整監 村本 有史 |        |  |
| 提案者                 | 岡山県 浅口市立寄島小学校    | 池上 宗一郎 |  |
|                     | 島根県 益田市立小野中学校    | 松田 淳   |  |
| 司会者                 | 島根県 益田市立東陽中学校    | 宮田 茂樹  |  |
| 記録者                 | 島根県 出雲市立北浜小学校    | 原 綾郁   |  |
| 運営係                 | 島根県 出雲市立朝陽小学校    | 原 浩司   |  |

| 第4分科会「組織・運営に関する課題」 |                      |       |  |
|--------------------|----------------------|-------|--|
| 会 場                | 市民会館 3F「301会議室」      |       |  |
| 指 導<br>助言者         | 島根県教育庁学校企画課調整監 笠柄 秀樹 |       |  |
| 提案者                | 岡山県 新庄村立新庄中学校        | 小川 誠  |  |
|                    | 岡山県 真庭市立湯原中学校        | 木村 俊弘 |  |
|                    | 島根県 大田市立大田西中学校       | 土井 善浩 |  |
| 司会者                | 島根県 大田市立朝波小学校        | 佐々木成之 |  |
| 記録者                | 島根県 雲南市立海潮小学校        | 安達 裕介 |  |
| 運営係                | 島根県 雲南市立西小学校         | 松本 博志 |  |

| 第5分科会「教職員の専門性に関する課題」 |                  |        |  |
|----------------------|------------------|--------|--|
| 会 場                  | 市民会館 3F「302研修室」  |        |  |
| 指 導<br>助言者           | 出雲教育事務所調整監 梅木 喜嗣 |        |  |
| 提案者                  | 山口県 美祿市立厚保小学校    | 吉谷 亮   |  |
|                      | 島根県 松江市立美保関中学校   | 西村 勝美  |  |
| 司会者                  | 島根県 松江市立湖南中学校    | 久保田 勲  |  |
| 記録者                  | 島根県 雲南市立加茂中学校    | 津田 由利恵 |  |
| 運営係                  | 島根県 雲南市立吉田中学校    | 須田 秀樹  |  |

| 第6分科会「副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題」 |                      |       |  |
|------------------------------|----------------------|-------|--|
| 会 場                          | ニューウェルシティ 2F「銀河」     |       |  |
| 指 導<br>助言者                   | 島根県教育庁学校企画課調整監 村上 修司 |       |  |
| 提案者                          | 島根県 江津市立江津東小学校       | 須藤 貴行 |  |
| 司会者                          | 島根県 江津市立桜江中学校        | 春木 二美 |  |
| 記録者                          | 島根県 雲南市立加茂小学校        | 青木 拓夫 |  |
| 運営係                          | 島根県 雲南市立斐伊小学校        | 野津 道人 |  |

## 第1分科会 研究テーマ「教育課程に関する課題」

### 1 提言の概要

【提言1】〈提言テーマ〉幼保小の連携による円滑な接続のための教育課程編成  
～幼保小接続推進リーダー育成事業の取組を通して～

〈提 案 者〉鳥取市立面影小学校 加藤 倫

#### (1) 研究のねらい

幼保小の接続を推進する職員の育成を図り、円滑な接続を進める体制を整えながら、接続に関する教育課程を整備することで入学する児童の小学校生活や学習への適応を図る。

#### (2) 研究の概要

- 目指す子供像・接続カリキュラムの編成
- 小学校と園との連携年間計画の作成
- 園児と小学生、職員同士の交流
- 中学校区副校長・教頭会における取組

#### (3) 成果と今後の課題

- 「幼保小接続推進リーダー」が中心となった取組により、リーダーの育成ができ、「接続カリキュラム」、「交流計画」等が学校全体に浸透してきている。
- 幼保小で協働して「目指す子供像」の育成に取り組むことで、円滑な接続のためのカリキュラム作りに統一性が見られる。
- 計画的な交流活動により、新1年生が入学後に顔見知りの上級生や職員がいることで安心して幼保小の連携ができるようになった。
- コロナ禍もあり、子供や職員同士の交流や体験、情報交換の場の設定が難しかった。
- 中学校卒業までの15年間を見通した子供の育成に関わる成果と課題を共有しながら取り組んでいく必要がある。

【提言2】〈提言テーマ〉地域の特性を活かした特色ある教育活動の推進と教頭の役割

～保小中における組織的な連携とふるさと教育の取り組みをとおして～

〈提 案 者〉隠岐の島町立五箇小学校 大濱 雪美

隠岐の島町立五箇中学校 永海 伸高

#### (1) 研究の概要

- 基盤づくり 既存の五箇教育推進会の充実
- 枠組みづくり ふるさと教育の全体計画を作成による目標・重点の共有、見える化

#### (2) 研究の概要

- 五箇教育推進会の充実
- 全体計画と一覧表の作成
- 地域を活用した実践

#### (3) 成果と今後の課題

- 保小中連携の深まり
- 児童・生徒の意識の変化
- 教頭の役割の試行錯誤
- 地域資源の活用とふるさと教育の充実
- 五箇教育推進会の充実



## 2 質疑・意見交換

### 【提言1】

- 「幼保小接続推進リーダー育成事業」は県教育委員会の事業である。具体的には幼保小接続推進リーダー育成事業の指定を受け、低学年の担任の中からミドルリーダーになりうる2名を指名した。保育園からも推進リーダーを1名ずつ指名した。
- 推進リーダーは小学校中心で行っている。年度当初にリーダーに集まってもらって年間計画を立てている。交流活動は校区内の園の年長児すべてが本校に来る。その年長児がすべて本校に入ってくるわけではない。校区外の園とはなかなか交流ができない。
- 幼保小の連携において、足並みをそろえるポイントは、育てたい子供像の共有である。

### 【提言2】

- 月に1回管理職会、委員会は学期に2回程度行う。それ以外に自主的に活動している委員会もある。
- 保育所の活動については芋堀などの自然とかかわる活動を多く行っている。小学校から中学校への引継ぎに関しては、お互いの活動の様子を先生方に見てもらいたいという思いがある。昨年度はできなかったのですが、今年度はその実現に向けて協議中である。また、今年度は推進会の研修委員会の目的があいまいだったので、ふるさと教育を柱にして充実させていきたい。
- 先生方の意識を上げるために、やる気のある人に声をかけ、周りの人も巻き込んで意識を高めるようにしている。

## 3 【指導助言】

### 【島根県教育庁教育指導課 調整監 小室 淑子】

- 第1分科会の発表では、組織的な連携、子供たちの学び、幼児教育では遊びの連続性や系統性というポイントがあった。提言1ではリーダー育成やミドルリーダー育成、提言2ではふるさと教育や若手の育成、という柱があり、学習指導要領の基本方針にある育てたい資質・能力の明確化、各学校のカリキュラムマネジメントの推進という2点につながる取組であった。
- 資質・能力の明確化について、学習者である児童・生徒に視点を置くことが、学びの質の向上には欠かせない。五箇小・中学校のふるさと教育における特色ある教育活動推進のために枠組みを作ったことと、9年間にわたる系統的な力の育成を示したこと、面影小学校の幼保小で行われた目指す子供像の共有・連携、年間計画の作成は、資質・能力の育成の視点から大切な取組である。幼児教育と学校教育は共に教育という言葉を使う。幼児は教科書などを使わず、夢中になって遊ぶ中で自覚を伴わず自然に自立心などを身に付けていく。小学校では自覚的な学びとなる。幼児教育と小学校教育はかなり隔たりがあり、それをつなげるのが接続期の教育である。それを全教職員で行っていただきたい。
- カリキュラムマネジメントは管理職の働きがカギになる。まずは現状を把握してビジョンを描く。そして、いつどこでだれが何をどのようにやるのかを、教育活動や組織運営、教育環境の観点から考えていく。それをPDCAのサイクルで回す。その中身をどう作るか、焦点化するほうが良い。目的が定められていないものもあるので、何が課題なのかを見つけることをスタートとする。また、PDCAのCからスタートすると良い。学校によって課題は全く違うので、他の学校と同じことをしてもうまくいかない。課題の解決の過程に学校の特色が生まれてくるかもしれない。
- 五箇小・中学校のふるさと教育の全体計画や年間指導計画の再整理、面影小学校の共通のねらいや計画性を持った子供や職員の交流、接続カリキュラムの育成は、自校や校区の課題に優先順位をつけて、重点化した取組であった。カリキュラムマネジメントのポイントは、実態の見える化、優先順位をつけた焦点化、思いきったスリム化、途中での目標の再確認である。それらを確認しながら進めると取り組みやすい。

## 第2分科会 研究テーマ「子どもの発達に関する課題」

### 1 提言の概要

【提言1】〈提言テーマ〉関わり合い、思いを重ねながら創造する子どもの育成

～こ小中連携とコミュニティ・スクールの取組を通して～

〈提 案 者〉鳥取県東伯郡公立学校教頭会 北栄町立北条小学校 中川 由紀子

#### (1) 研究のねらい

こ小中連携とコミュニティ・スクールの取組において、校内や関係諸機関との関わり方や活動に向けての教頭の役割を明らかにすることをねらいとする。

#### (2) 研究の概要

- こ小連携の取組 ①職員連携・研修会 ②子どもの交流活動
- 小中連携の取組 ①学力向上に関わる取組 ②交流活動の取組 ③小中の接続に関わる取組
- コミュニティ・スクールの取組 ①「目指すこども像」の共有 ②学校教育の充実

#### (3) 成果と今後の課題

- こ小連携、小中連携での合同研修会、担当者協議の場の設置で、園や校種間の相互理解が図れた。
- コミュニティ・スクールにより、地域の方々との関わりや肯定的な声掛けが増え、子どもの自己有用感が育まれた。
- 活動の目的をより明確化し、活動が経験や学びとなり子どもの成長につながっていると、教師も子どもも感じられる取組にしていきたい。

【提言2】〈提言テーマ〉 学校図書館活用教育の推進に関わる教頭の役割

〈提 案 者〉 島根県浜田市教頭会 浜田市立第四中学校 永見 英郎

#### (1) 研究のねらい

教頭の立場から市内各校の学校図書館教育を再度見直すとともに、「学校全体の学びを支えるインフラ」として、その推進を図ることを研究主題として設定した。

#### (2) 研究の概要

- アンケートによる課題の把握
- 市教育委員会との連携
- 学校図書館に関わる校内組織の活性化

#### (3) 成果と今後の課題

- 生徒が意欲的に学ぶ姿が見られ、学力も身に付き、図書館の本を効果的に活用するなどの変容が見られた。
- 教頭として、組織的に学校図書館活用教育を推進したことは、生徒の求められる資質・能力の育成に寄与し、経験の少ない教職員の負担軽減や持続可能な働き方改革の推進につながった。
- 図書館活用に関わる職員をつなぐことが求められる教頭にとって、学校図書館運営協議会等は、重要かつ有効な校内組織であると再認識した。今後も教頭としての「つなぎ」を心がけていきたい。

### 2 質疑・意見交換

【提言1】

- 人が変わっても、体制、連携等が継続できるポイントを教えていただきたい。
- 教員や学年主任一人に任せたり、教頭が出すぎたりしない。学年団など複数で取り組むなど、たくさんの方に少しずつやってもらうことが必要だと言える。教頭として、調整を行っていく。
- 新しい活動を生み出す際の教頭の困り感はないのか。教頭がコーディネーターか。
- 例えば、ぶどう学習（3年生）に関して。ぶどうハウスを作るノウハウのことで、教頭は、地元のプロや地域の人との調整、依頼の繰り返しであった。地元の人は、楽しんでやっていただいた。これらのことを詳しく伝えていけばよいと思う。部の中で、コミュニティ・スクール担当がおり、困ったと

きは教頭が支援をする体制もとっている。

○教員の負担感はないのか。

→教頭として、教員には負担をかけたくない。だから、学校に負担があると判断したときは、校長と相談しそれらの活動は行わない。ただ、北条の地元の方たちは、学校が大変ということは、よくわかっておられる。地域との関係性は良好であり、学校は「おんぶにだっこ」の状態である。常にありがとうという感謝の思いを、自分はもっている。

○異校種連携に関して、忙しくて集まらない状況ではないのか。そのあたりを伺いたい。

→小中連携は20年続けている。昔は、教科ごとに集まって懇親会も行っていた。現在は、あらかじめ日程を決めており、年間計画にも位置付けている。小学校・中学校と交代で幹事を行っており、小中連携担当（研究部長）の交流もしっかりと取り組むことができている。

## 【提言2】

○調べ学習の際、ネット検索で済ませてしまう現状がある中、タブレットと図書館との両用をどのようにしているのか。

→頻繁に図書館の資料にふれさせる。文字で確認をするように、図書館に行く機会を多く設けている。図書館に隣接する空き教室と合わせて「調べ学習室」としての整備も行った。同市内の他校の事例では、本の情報の有用性・正確性に生徒自身が気付き、図書資料への回帰が進んだケースもあった。生徒の情報取捨選択能力の更なる育成が必要であると思う。

○年間計画の中で、生徒の願いや思いを盛り込まれることはあるか。

→どの授業でどの資料を使うか、図書の活用に関しての年間計画を作成しているが、思いや願いは盛り込んでいない。国語以外でも、体育や数学など、様々な教科で図書館を使っている現状があり、広がりを見せている。

○取組の共有状況はどのような感じなのか。

→市が積極的に取り組んでおり、司書教諭間の情報共有等も行われている。また、年度当初に、校内組織の中で、簡単ではあるが情報の共有を図り、組織で動くことの重要性の確認を行ったことで、取組の効果はあったと感じる。シンプルな文書を用意して確認することが大切だと感じる。

## 3 指導助言

### 【島根県教育庁教育指導課指導主事（兼）企画幹 橋本 憲】

○「小学校学習指導要領総則」には、道徳教育、カリキュラムマネジメントの他、学校段階等間の接続のことも書いてある。これらの内容をしっかりと確認していくとよい。幼児教育と小学校教育等、異校種の違いにおいて、「指導方法」「教育活動」をしっかりと見据え、話し合い・連携の中で整理し、小1プロブレム等の課題に対応してほしい。それがしっかりとできているのが北条小学校のこ小中連携の事例であると感じた。

○コミュニティ・スクールには、法的権限がある。学校は委員の声を聴き、委員は学校からの説明を聞き、学校の考えを承認することとなる。学校運営の当事者としての機能があり、正式な立場で応援していただくことができる。法律に基づいて構築している北条小学校の事例は、理想的な形であると言える。

○教頭の立場としては、外部との渉外として頼むだけでも言える。教頭としての負担感や、校内組織の中で誰がいつどのような動きをするのかについても整理しておかれるとよい。

○子ども読書県しまねの取組で、学校司書配置事業「人のいる図書館」が始まり、県内配置は、ほぼ100%となっている。県、市の取組と連携して、継続的に行っている浜田市立第四中学校の一体となった取組が素晴らしいと言える。ICTと図書のベストミックスに関する研究を、今後進めていかれるとよいと思う。教頭の方から直接図書館に行ったり、学校司書教諭の思いを聞き広げていたりしていくということは、原始的なことかもしれないが大切にしていってほしい。教頭としてのつなぎの姿勢を今後も大事にしてほしい。



## 第3分科会 研究テーマ「教育環境整備に関する課題」

### 1 提言の概要

【提言1】〈提言テーマ〉 持続可能な地域連携・協働するための教頭の役割  
～学校運営協議会・地域学校協働活動を中心として～

〈提 案 者〉 岡山県浅口地区公立学校教頭会 浅口市立寄島小学校 池上 宗一郎

#### (1) 研究のねらい

小中学校の、学運協や協働活動を中心とした地域連携・協働の実態や課題を明らかにし、「学校地域における課題解決の取組にするためには」「学校と地域が無理なく継続できる取組にするためには」という視点をもって、地域連携・協働の在り方を考えるとともに、その活性化を目指す。

#### (2) 研究の概要

- 教頭同士で情報交換をする必要性
- 学運協について学ぶ場の必要性
- 講演会の実施
- 各校の実践報告会

#### (3) 成果と今後の課題

- 他校や他地区の実践や現状を聞くことで、地域連携の進め方や可能性について大きく視野が広がった。
- 講演会を通して、地域を巻き込んで学校経営を進めることの重要性について理解できた。その理解をもとに、自分の学校の実践と比べ次年度以降の地域連携のあり方を見直すことにつながった。
- 地域の課題解決のために効果的に働いているか俯瞰し改善を図ること。
- 教職員へ学運協・協働活動について周知すること。
- 常に情報共有ができるよう教頭のネットワークを形成し、相談しやすい関係性を継続すること。
- 地域連携のために必要な経費のこと。

【提言2】〈提言テーマ〉 『教育の魅力化』を持続的に推進する校務DX確立のための学校間協働

〈提 案 者〉 島根県益田市小中学校教頭会 益田市立小野中学校 松田 淳

#### (1) 研究のねらい

- ①益田市教頭会として、「教育の魅力化」を持続的に推進していく校務DXを確立するための学校間協働の在り方を探る。
- ②教員のICT活用指導力向上や業務改善につながるICT活用を教頭自らが進めていく。

#### (2) 研究の概要

- 益田市教頭会中学校部会でのICTを活用した情報共有の実現
- 益田市事務支援グループとの連携
- 情報共有や連携からの各校での新たな取組
- 益田市教育委員会との連携への発展
- 今後に向けて県外校の情報収集

#### (3) 成果と今後の課題

- 教頭業務、職員、生徒、保護者の負担軽減
- 移動先での教頭業務の効率化の期待
- 校務DXの好事例の積極的な紹介によるチーム益田市教頭会中学校部会の一体感の醸成
- 学校の実態に応じた校務DX
- 職員全体にとって有益なシステムづくりのための教頭間や教育委員会との連携
- 行政や専門業者の協力を得た校務DXの推進（セキュリティや働き方の問題解決）

## 2 質疑・意見交換

### 【提言1について】

- 「漢字検定」の取組が表彰を受け、それが子どもたちの意欲向上にもつながっていると思う。
- 熟議の後の地域の実際の取組に対して、時期や運営面で学校がどこまで関わっているのか。
- 取組の内容によってウエイトが違う。「漢字検定」の取組に関しては、立ち上がりの時は、学校が積極的に関わっていた。休日に行っているなので、施設管理の面でのみ学校に関わり、実際の運営は地域が行っている。年度当初に、どんな取り組みにしていくなのか部会ごとに話し合い、計画に沿って取り組んでいく。完全に地域主導で行われている活動もある。
- 学校のビジョンがなかなか地域に伝わっていない。学校のビジョンをお願いする場合に、熟議の日程をどのように組んでいるか。また、参加するメンバーはどうしているか。
- 子どもが参加する拡大熟議は夏休みに行っている。

### 【提言2について】

- 島根県邑南町ではまだ校務支援システムが導入されていない。来年度、浜田教育事務所管内でシーフォースを導入していく動きがみられる。実際にシーフォースを活用して便利に感じることはどんなことがあるか。
- 成績処理、通知表の作成、指導要録の処理、転出入の手続き、出席簿の作成等も行える。また、行事予定を入力すると週案も学校日誌も作成できる。他校への連絡も学校代表や個人あてに添付文書とともに送ることができる。大変便利で以前より随分よくなったと感じている。
- 益田市教頭会中学校部会の動きがもとになり、行政を巻き込みながら校務DXを推進していったことが大変すばらしい取組だと思った。
- 山口県では来年度から校務支援システムが県下で統一される。市をまたいだ転校などもメール1本で済むようになる。
- 行政に予算をつけてもらうためには、この校務支援システムがいかに有用なものなのかアピールしていく必要がある。まさに益田市教頭会の皆様がそれを実践して実現につながっていると思います。
- 島根県安来市では、新しい校務支援システムが導入されて2年目である。慣れるまではやや大変だが、使い始めると非常に便利さを感じている。

## 3 指導助言

### 【松江教育事務所 調整監 村本 有史】

### 【提言1について】

- 読書の取組を進める中で、学校支援部会が主体となって「漢字検定」をされた。子どもだけでなく地域の方も一緒に受けるという取組に驚いた。学校運営協議会の提案性や組織力を改めて感じた。
- しまね教育魅力化ビジョンについて、「教育の魅力化」を進めるための4つの柱の中の「地域協働体制の実現」において、互いに地域と学校が作用し合う、ここに持続が生まれると考える。
- 地域コーディネーターと教頭との関係性の中でも「地域のことを知っている人脈のあるキーマン」の役割を果たすことができる。その持続に関するカギは地域コーディネーターが大きな部分を握っている。そのため、教頭がしっかり関わることで持続性も高まっていくと考える。
- 交通安全に関する生徒会の取組では、当事者目線ではなく、幼児や高齢者の立場で考えていくことで、中学生と地域が一緒に街づくりに取り組んでいくことにつながる。

### 【提言2について】

- 校務DXを推進することは、教育の情報化を図り、働き方改革につなげ、教員がゆとりをもって子どもたちに対する時間を作り出す取組となっている。
- 校務DXの取組において事務支援グループと連携して進めていることは非常に有効である。
- 欠席連絡の受信と集約にICTを活用できたら劇的に作業量を減らすことができる。

## 第4分科会 研究テーマ「組織・運営に関する課題」

### 1 提言の概要

【提言1】〈提言テーマ〉 学校運営協議会と地域学校協働活動の運営をスムーズにするための取組  
～真庭支部全体でのICT活用をとおして～

〈提 案 者〉 岡山県真庭支部教頭会 新庄村立新庄中学校 小川 誠  
真庭市立湯原中学校 木村 俊弘

#### (1) 研究のねらい

真庭支部教頭会として支部内の取組を共有し、そのデータベースを活用することで、学校運営協議会と地域学校協働活動の運営をスムーズに行うことができるようにする。

#### (2) 研究の概要

○取組状況調査の実施 ①結果集約し、データベース化 ②情報交換・意見交換

③先行実施校を3校に絞り質問項目決定

④「成功事例」「工夫事例」をデータベース化

○講演会の開催

○『真庭支部教頭会のサイト』作成 ①行政区を超えての共有 ②問い合わせ先の作成

③参考活用のためのリンク作成 ④自校の取組実践掲載

#### (3) 成果と今後の課題

○『真庭支部教頭会のサイト』を作成することによって、時間や距離の制約なく情報を得ることができ、自校の学校運営協議会と地域学校協働活動の運営をスムーズに行うことができた。

○更に聞きたい場合にも容易に直接連絡をとることができ、教頭研修の場でもデータベースの情報をもとに具体的話を多くすることができた。

●情報交換や意見交換は活発にできていた半面、質問や困り感への投稿は少なかった。多忙な毎日の中、サイトに投稿する時間の余裕がないのが原因であると考えられる。

●ICT活用に得手不得手があるため、丁寧なサイトの説明と使い方についての時間を設定すれば良かった。今後、サイト運用とデータベースの更新を進め、研修の充実を図る必要がある。

【提言2】〈提言テーマ〉 市内小中学校の連携による組織的な授業改善に向けた取組  
～能力ベースの授業づくりの実施に向けて、大田市教頭会としての関わり～

〈提 案 者〉 島根県大田市公立学校教頭会 大田市立大田西中学校 土井 善浩

#### (1) 研究のねらい

各校で行われる授業改善の実践を教頭会において情報共有し、市内小中学校の連携による組織的な取組につなげていく。また、「能力ベースの授業づくり」を推進していくうえでの課題を共有し、事業主体である大田市教育委員会等との連携を図っていく。

#### (2) 研究の概要

○訪問指導（通覧指導）情報共有 ①朝波小学校の実践事例 ②高山小学校の実践事例

○教育委員会との連携

#### (3) 成果と今後の課題

○各校の「能力ベースの授業づくり」を意識した授業改善の取組において、指導助言の齊藤教授から指摘されるポイントは教科を通じて共通する点が多くあり、共有する良い機会となった。

○教頭会における各校の取組の発表が、その後の学校訪問指導や授業改善に生かすことができた。発表後の感想では、自校の取組を振り返り、さらなる改善に努めてく意欲や、研修を深めていく意識の高揚が感じられた。

●授業改善の取組は各学校単位で行われることから、教頭会として関わりを持つことの難しさを感じた。市内小中学校が一体となって授業改善の取組に向かっていくには、まだまだ課題が多い。



- 課題解決に向けた教頭会としての意見をまとめ、教育委員会に伝えたが、具現化するには至っていない。今後も教育委員会や他の外部機関との連携を深め、協働していく必要性を感じた。

## 2 質疑・意見交換

- コミュニティ・スクール通信は、様々な立場にある地域コーディネーターの打ち合わせ後の空き時間や隙間時間作成している。学校運営協議会については、事務局は小中学校教頭が行っている。地域学校共同活動については、地域コーディネーターを設置したり行政を推進したりしているところである。
- データベースとまでは言えないかもしれないが、先行実施している学校の取組をサイトとして紹介している。編集権限や閲覧権限をうまく使いながら、各小中学校の活動を随時あげることができ、閲覧できるところにメリットがある。また具体的な数字として表してはいないが、気持ち的にもかなり業務改善につながっていると考えている。
- 自治体や行政区を跨ぐとICT機器が異なるので、今回グーグルを利用したサイトにたどり着いた。行政にも働きかけ要望を出しているところであるが、実現するかどうかについてはわからない。
- 学校運営協議会を立ち上げた時に、小学校は子どもと地域とのつながりがあって良さが見られたが、中学校としては何ができるのかという面があった。先行している中学校の実践例を参考に、知ることや気づくことができた。先生方への良さや利点の説明は、まだまだ足りていない部分があるので、引き続き説明が必要である。
- 市教委から2年前に学力育成プランとして「能力ベースの授業づくり」の実施がスタートしたが、当初はその内容についての理解が学校によって異なっていた。管理職だけでなく全職員が共有フォルダを自由に見ることによって浸透の均等化が図られていったのは良かった。
- 各校の学校訪問指導の授業公開もあれば、市教育研究会や校長会主催のものもあり、学校や授業者にとって負担とすることも少なくなかった。主体はどこなのか構造図等を整理し、それぞれの団体と連携をとりながら進めていくことが今後の課題である。

## 3 指導助言

### 【島根県教育庁学校企画課 調整監 笠柄 秀樹】

- 2つの実践については、真庭支部の「地域との連携協働」と大田市の「チーム学校」という対照的な題材であったように思われるが、ともに「繋がる」「繋げる」というキーワードで共通の部分があったのではないと思う。また、中教審答申にある2つの国の大きな流れを受けた非常に意義のある価値のある発表であったと感じる。
- 教頭の困り感から必要感のある課題を設定し、目に見える形で解決に至ることは大変意義のあることであった。構成員の意欲が持続し、周りの教職員にも波及していく、まさに教頭同士が繋がり、サイトも繋がっていった実践であった。ICTを教頭自ら率先して活用していったことも大きかった。グーグルフォーム等はすぐにでも校務等に活かして運用し使うこと、一過性ではなく持続可能なものとして、記録を保存し、足跡を残していくことが大事になってくる。
- 得意な教頭がいなくなった場合に運営業務をどう残し、どう引き継いでいくかを考えておく必要がある。また、参画者を増やし、いろいろな人のサポートであったり、行政や地域の人を活用していったりすることも考えていくとよい。
- 市全体の教員の課題であり、市教育委員会の事業である「能力ベースの授業づくり」に対して、まず教頭自身がどうあるべきか、どう考えていくべきかを確認・把握していかれたことは大きな意味があった。また教頭が関わることによって相当深まりが出たと考えられるし、他校の情報をインプットして校内でアウトプットしたことにより、さらに効果が上がったと考える。
- 小中学校の垣根を越えて授業改善に取り組まれたことも意味のあるものであった。よく教科の壁や校種の壁があると言われがちだが、共通の考え方が基盤となって議論し、発展させることができたのではないと思う。
- 市教委へ提案されたということは、主体的に物事を捉えているということ。何らかの形で市教委にも響いていると考えられる。折り合いをつけ熟議をしながら、我々は何を担えばいいのかを考えていくことは意味がある。実現するためには、引き続き各機関との連携や協議が大切になってくる。

## 第5分科会 研究テーマ「教職員の専門性に関する課題」

### 1 提言の概要

【提言1】〈提言テーマ〉 未来をたくましく生き抜く子どもを育む魅力ある学校づくり  
～自立した学習者の育成と教頭の関わり～

〈提 案 者〉 山口県美祢市公立学校教頭会 美祢市立厚保小学校 吉谷 亮

#### (1) 研究のねらい

児童生徒を「自立した学習者」として育成するため、教職員の授業力や資質向上に向けた校内研修の活性化に取り組む。

#### (2) 研究の概要

○授業改善に向けた実態把握および本市の課題について

日々の授業づくりについて、自由進度学習について、管理職の実態について

○「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実に向けた研修の在り方について

教頭自身が学ぶ、教頭自身が実践してみる、教材作りや実践を共同で行う、市・小中で連携した研修活動、実践や情報の共有

#### (3) 成果と今後の課題

○教頭自身が積極的に実践したことで具体的な助言や関わりが可能になり、校内研修が活性化した。美祢市教育委員会との連携により、市の方針に合わせた教職員の授業作りに寄与することができた。

○自由進度学習を実践しようとする教員が増え、相乗的に児童生徒の授業への主体性も高まっている。また、教頭が積極的に情報発信したことで、自由進度学習に不安のあった教員が減少した。

●新規採用や初めて美祢市に勤務する教員の自由進度学習に対する理解への対応や、自立した学習者を育成するために、自由進度学習以外の学びのスタイルの可能性を模索する必要がある。

●教頭による実践の日常化。校内研修への教頭の適切な関わりの広がり。

【提言2】〈提言テーマ〉 持続可能な研究・研修のあり方を考える

～ 主体的に学び続ける教職員チームをめざして～

〈提 案 者〉 島根県松江市中学校教頭会 松江市立美保関中学校 西村 勝美

#### (1) 研究のねらい

○限られた時間の中で効果的に校内の研究・研修を進めていくための研究体制の構築の方法

○主体的に学び続ける意識をチームとして醸成するための教頭としての役割について

#### (2) 研究の概要

○研究の共通のゴールと重点教科の設定

今年度は人権教育の公開授業があることに併せて、道徳科を重点教科とし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、ICT活用能力の向上という2点をゴールに設定した。

○計画的な研究・研修時間の確保

研究・研修職員会議の設定、人権教育ミニ研修の実施、小学校と協働の授業研究会の実施

○教頭による研修、公開授業の実施

#### (3) 成果と今後の課題

○全員で協働できる道徳科を重点に取り組んだことで、生徒が自分事として考えるための発問の仕方や多面的・多角的に考えさせるための仕掛けを考えることが他教科の授業改善にもつながった。

○タブレットを使った協働的な学びについても、戸惑っていた教員が多かったが、実際に活用した授業で生徒が生き生きと取り組む様子を見て、専門教科でも取り入れる教員が増えた。

●一人一人が専門性の向上に向けて学び続けるためには、業務改善が欠かせない。行事や分掌、部活動等について更に検討し、校内・外の研修等への参加時間の確保と意識の向上をめざしたい。

## 2 質疑・意見交換

- 自由進度学習が有効な教科、どの学年が適しているか、学校の規模や学級の規模について  
→算数は取り組みやすいが、どの教科でも可能。タブレットで動画を見ながらでも進められる。高学年での実施が多いが、部分的には低学年でもできる。規模は、少人数の方が実施しやすいが、普通規模でも可能。複式学級だと難しい。市全体で教材を蓄積していくと取り組みやすくなると思う。
- 自由進度学習の学習成果や見取り、評価について  
→子どもの振り返りをしっかり読み取る。できているところとできていないところを把握する。自由進度学習を止めて、一部の子を一斉指導することもある。A Iドリル等の活用。難しさは感じる。
- 教頭が率先して専門性を上げたり、子どもが主体的に学ぶ仕組みを作ったりすることは大切な事だと思うが、一方で、教材研究の不安や負担感を教えてほしい。  
→準備が大変だったという声はよく聞くが、単元でまとめて準備していると考えると良い。最初は大変だが、みんなで分担したり、蓄積したりすることで、自分に合わせたものにアレンジすればいいだけになる。いずれは負担軽減になるのではないかな。
- 小中連携で取り組んだときの効果や中学校でのテストのあり方について  
→中学校からの自由進度学習は戸惑いも大きい。小中で継続して自由進度学習を行うことで効果があると思う。今は、生徒の自主性が発揮できる場面で自由進度学習を実施できればよいと思う。
- 中学生は、自分が本当に正しいかどうか不安、教師にしっかり教えてほしいと思っている。また、教師も自分がきちんと教えないと不安という声がある。テストについては、日頃の単元テストや確認テストを実施し、定期テストは一般的な習熟度テストにすべて置き換えた。全体を見通した評価や子どもの学び方、学ぶ方法を模索しているところである。
- ローテーション道德はどのような形で具体的に取り組んでいるか。  
→研究部から年度当初に実施時期を提示。小規模校のため、多くの教員が全学級の授業を行う。そのため、生徒の実態把握ができており、誰がどのクラスの道德を行っても担任並みの授業はできる。
- 人権教育ミニ研修について  
→以前から取り組んでいる。年度当初、実施時期の割当てを示し、職員会の前に5～10分で実施する。人権教育に関わる様々なテーマ（性の多様性、公文書で使用不可の言葉など）を扱っている。
- 一人一授業はどんな形で実施しているのか。また、協議についてはどうしているのか。  
→略案の様式があり、小中一貫で取り組む視点などが決まっており、項目を選べばすぐにできるようになっている。協議は、付箋の共有だけで終わる時もある。なるべく負担にならない形で実施。
- （ミニ研修についての事例）板書を撮影し、校内のクラウドルームにアップ。自由な時間にアップ、閲覧、コメントでき、誰もが見て、板書の良いところや改善するところなど自由に書き込む。教頭が「～が良いよね」という返しをすることでやる気が引き出せる。若手でアップする人が増加。

## 3 指導助言

### 【島根県教育庁出雲教育事務所調整監 梅木 喜嗣】

- 教頭自ら研究に対する姿勢を示すことで、校内研修の活性化や教員の不安軽減、意識改革に繋がる。  
市教委や外部機関を活用して研修のコーディネートを行う。教頭自らが研修講師や授業者として実践する。「この教頭ならついていきたい」と思わせる取組が大切。
- 継続的に取り組むために、年度当初にきちんと共通理解を図り、不安・疑問の解消をする。授業公開を伴う校内研修の実施。定期的に児童の意識調査の実施。
- 教職員の持ち味が生かされる取組や教職員の思いを実現するために適任者に活躍の場を設けたり、授業改善に向け、先進校視察や資料を提供してもらったりすることで自校の研究改善に繋げる。
- 「ウェルビーイング」を高める5つの要素や「冰山モデル」を参考にして、教頭として様々な視点を持ちながら教職員や児童生徒に関わってほしい。元気な教職員集団をつくってほしい。

## 第6分科会 研究テーマ「副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題」

### 1 提言の概要

【提言2】〈提言テーマ〉 効率的で働きがいのある学校運営における教頭の役割

～“つなぐ・支える”をキーワードとして～

〈提 案 者〉島根県江津市小中学校教頭会 江津市立江津東小学校 須 藤 貴 行

#### (1) 研究のねらい

- 円滑な学校運営のため、校内の連携、他機関との連携における教頭の職務を整理し、よりよい方策を明らかにする。
- 教職員一人一人が充実感・達成感を得ながら職務にあたるための教頭としての関わり方について、各校での取組・実践した内容を事例として提供し、お互いに意見交換することで、自校の業務への手がかりとする。

#### (2) 研究の概要

##### ○現状と課題の把握

教頭の職務内容、職務機能に関するアンケートを、市内小中学校教頭を対象に行った。調査項目は、全国公立学校教頭会発行の「令和4年度研究の手引き（全国共通研究課題の手引き）」を参考にし、自由記述で回答するものとした。

また、市内教職員に対するアンケート「江津市働き方推進委員会資料」をもとに、キーワードを抽出・焦点化して検討を加えた。これらのアンケート結果から、多岐に渡る教頭の職務の中で特に重要な役割として、校内や外部機関とのつなぎ役として機能すること（効率的な学校運営）、また教職員が充実感・達成感を得るために様々な面から支えること（働きがいのある学校運営）であるとし、この2点から教頭の職務内容・職務機能を整理し、研修会や本教頭会での意見交換を通して、その実態を明らかにしていくこととした。

##### ○具体的な取組

###### ①研修会の開催

ア. 目指せ！『スーパー教頭』安来市立安田小学校校長 椿 英隆 氏（R4.8.9）

イ. ICTに係る研修「デスクネッツ活用研修」TSK情報システム株式会社 川神 佳太 氏（R5.3.3）

###### ②江津市小中学校教頭会での意見交換

ア. 効率的な学校運営に関する内容

イ. 働きがいのある学校運営に関する内容

#### (3) 成果と今後の課題

○効率的な学校運営を進めていくために、校務支援システムの活用は必須である。そのために教頭が有効な使い方や他校の活用事例を把握しておくことは、自校の運用に大いに役立つ。本市教頭会で研修会や意見交換を実施し、教頭間で情報共有できたことは、各学校の業務の効率化を進める上で有効だった。

また、「つなぐ・支える」をキーワードに各学校の実践を出し合い、まさに“教頭業務の肝”について議論したことは、自身の職務の整理ややりがいを感じることにつながった。

そして、小中学校全体で、また地域別や小中別に分かれて、市内の教頭同士で意見交換する機会を設けたことは、経験年数の違いに関係なく悩みや困り事を気軽に相談することができる貴重な機会になった。教頭会という組織が意見交換等の場として機能することは、自校のみならずその地域の職場環境の改善にむけた提言や要請活動につながるものである。江津市教頭会では今後も意見交換の場を設定していきたい。

●教頭本来の職務に専念するため、主幹教諭の全校配置等を国・県等へ要望していく必要がある。



●業務改善等にむけた提言や要請活動を進めていくために、校長会や地教委との連携や擦り合わせの在り方を検討していく必要がある。

## 2 質疑・意見交換

- 多忙感の解消に難しさを感じている。それぞれの学校で事情がいろいろある。自校では児童の下校と教員の退庁時間が同じ時間である。職員会議の削減に取り組んでいる。年間34～35回実施しているが、江津では実際どのような取組をしておられるのか。
- 職員会は月に2回実施している。クラウドで済むものと、協議が必要なものに分けて議題を精選している。実際やってみると回覧・レポートで済むものが多くあることに気づいた。職員朝礼や終礼に変えることができた。
- 負担軽減について、昔は忙しかったが負担感が少なく、今は時間が減っているが負担感が多いこれはどうしてなのか。全員で考えてみたい。
- 江津でも、効率化・やりがい、時間の短縮、会議の精選について話題になった。やりがいがないと多忙感が増えていくのではないかという話になった。江津でもこのことについては悩んでいるところ。
- 負担感・多忙感については教員が子供達に関わる時間が取れてそれで充実感が生まれれば負担・多忙感は生まれにくい。以下に教員に子ども達に関わる時間を持ってもらえるように担任外がその他のことに時間を割くようにしている。
- いろいろ削減してみると多忙感が減らない。自己研鑽日…児童を早めに帰して授業準備の時間にあててもらっている。これがどうだったかは今年度の振り返りで分かる。
- 昨年度の自己目標を「つなぐ支える」とした。組織の中で仕事の押し付け合いを感じたときがあった。「一緒にやりませんか」と言って一緒にできるような体制をいかにつくるかということにチャレンジしてみた。みんなで力と知恵を出し合い協働しようとする意識を持てるようにしている。
- 30代の教職員のやりがいをどう生み出しているか、40～50代の管理職以外から大げさに褒めるようにお願いをしている。
- 負担軽減ということで様々なことをスリム化しようとしている。その際、職員全員のアイデアを取り込もうとしている。自分のアイデアが採用されたというところがやりがいにつながっていると感じている。完全なスリム化というよりも取組に意味を持たせることになっている。

## 3 指導助言

### 【 島根県教育庁学校企画課 調整監 村上 修司 】

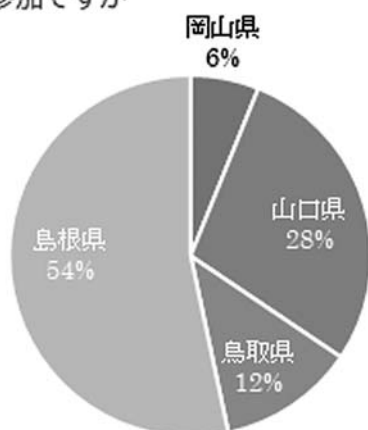
- 教頭の役割としてのキーワード「つなぐ」「支える」とは
  - ・つなぐ
    - 校内のつなぎ役 職員の協働のきっかけをつくるもとに
    - 校外のつなぎ役 コーディネーター的役割
  - ・支える
    - 人材育成 任せる 成長を見守る 労う 労う…感謝まで
- 教頭が「つなぐ」「支える」上で、大切にしてほしいこと  
(調整監が大切にしてきたこと)
  - ・忙しくないふり(忙しい中でも忙しい感じを出さない)
    - バタバタしていると職員が相談しにくいと感じる。情報の共有が進まない。
  - ・労いの言葉がけ
    - 名前を付けて労う。職員のやりがいにつながる。大人も褒められるとうれしい。
  - ・地域組織とのつながり
    - 教頭として地域の公民館や自主組織等と常日頃から顔が見える関係作りを進めてほしい。

## 第43回中国地区公立学校教頭会研究大会（島根大会）ふりかえり・まとめ

オンラインによる回答（総回答数180件）

### 1 参加について

どちらからご参加ですか



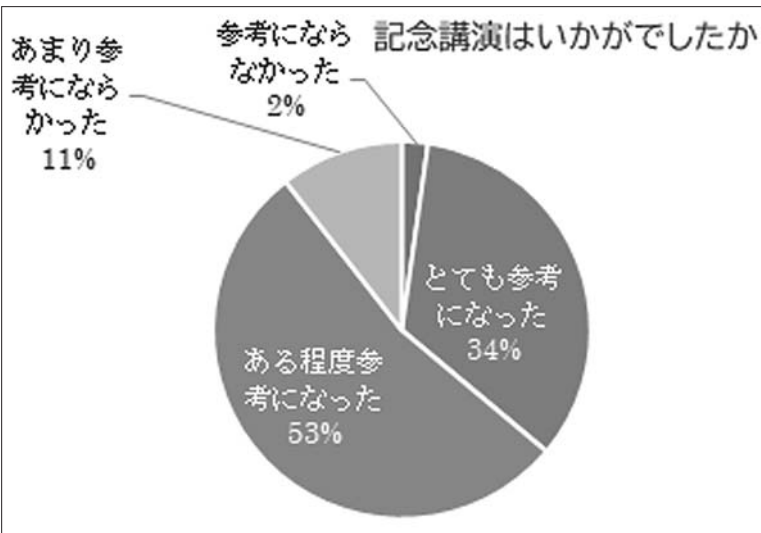
全県からたくさんの先生方にご参加いただいた。

県内は参集、県外の方はzoom meetingを活用してのオンライン参加とし、ハイブリッド型で開催した。

各県の事務局にもご協力いただき、会議コード等の配布も円滑に行うことができた。

### 2 評価

#### （1）講演について



【ご意見より】

- ・子どもたちが、安心して失敗できる学校、失敗から学ぶことができる学校をつくっていきたいと思った。
- ・「ふるさと」「その土地の物語」を大切にすることで、他の地域の人々とも認め合えるということを実感することができた。
- ・ALTとして、いろいろな学校に勤められた経験からの、「子どもたちは先生や学校をよく見ている、よく知っている、子どもたちの声を聞くことが大

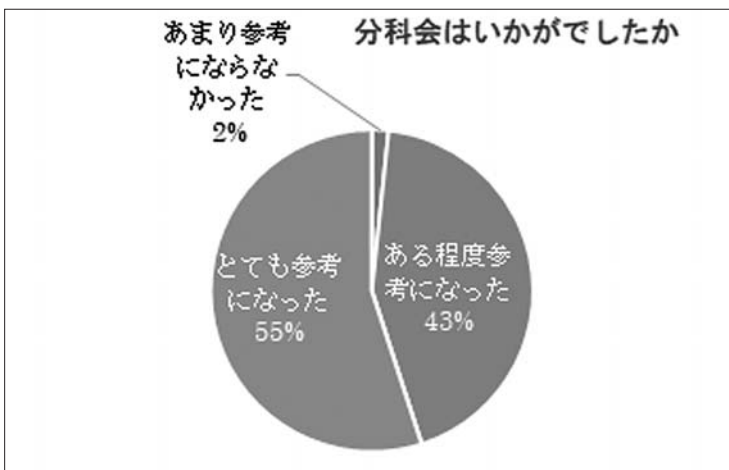
事」という言葉が印象に残った。自分の考えや今までのやり方を通すだけではなく、その地域・その学校の子どもたちに寄り添って、指導方針を調整していくことが必要だと感じた。

- ・海外の教育について学ぶことも必要だと感じる事ができた。

○お話の内容を視覚的に提示していただきたかった。

○焦点を絞って外国人から見た日本の教育について話してもらいたかった。

## (2) 分科会について



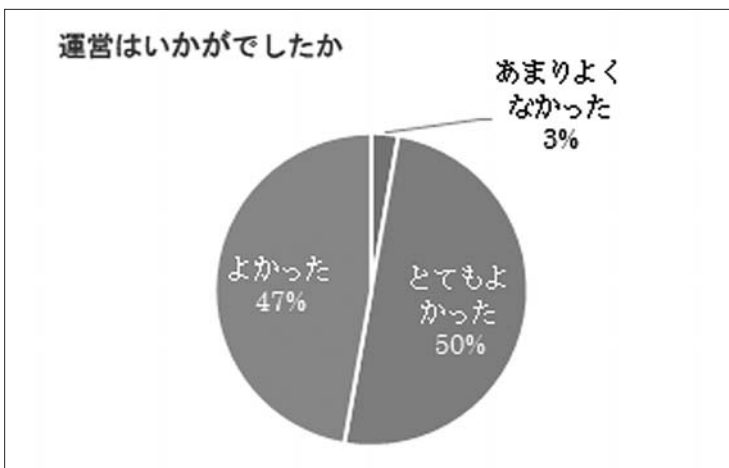
### 【ご意見より】

- ・学校運営協議会と地域学校共同活動がうまく連動している事例でとても参考になった。地域コーディネーターとの連携を進めたい。
- ・教頭は、子どもたちの成長・発達を促すための環境（人やこと、思い、時間…）を調整していくのだと痛感した。
- ・教頭職同士を「つなぐ、支える」意味でも、月一度の定例教頭会は必要です。
- ・教頭自らが、ファシリテーターであるとともにジェネレーターとなって参画し、学校を盛り上げられる存在になりたいと思った。
- ・図書館の取り組みは現在司書教諭が中心に

やっているが、管理職としてもサポートしていきたいと感じた。調べ学習のスペースは羨ましい。

- ・第1分科会では、提言だけではなく、たくさんの質疑応答があり、幼保小中の繋がりについて学ぶことができた。また、指導助言では、島根県教育委員会の取組みをDVD視聴することもでき大変良い学びとなった。
- ・負担感を感じるものは実施しない、という教頭先生の信念に、なるほどと参考になった。
- ・鳥取県は、県全体（小中）で同じ校務支援システムを使っている。その中で、掲示板には連絡を載せている。成績もそちらに入力、高校入試の志願書も出るし、要録も出る。出席簿もそちらになる。かなり業務削減になっている。島根は、地域によって校務支援システムが違うということでしょうか。職員会の多さにビックリした。それでは、自己研鑽の時間が取れないなと思った。
- ・ICT活用や地域との連携を工夫しながら、学校の負担が軽減できるとよいと感じた。

## (3) 運営について



### 【ご意見より】

- ・オンライン参加でしたが、とても画質も音声も良かったので快適に視聴できた。時間通りの進行も素晴らしいと思った。
- ・雨天にもかかわらず、駐車場への案内や弁当配布など、細部にわたってお世話いただきありがとうございました。
- ・県内の教頭は参集型だったのでよかった。お弁当も美味しかった。
- ・参集とオンラインの開催について大変参考になった。
- ・前日の接続テストやHPを使った資料配付など、今後も継続していくと良い。

- ・運営に関わってくださった皆さんが温かく迎えてくださったことがとても嬉しかった。

○せっかくならブレイクアウトルーム等で協議ができると良かったと思う。

○会が大きすぎて、準備が大変だったと思う。学校の業務に影響がでているのではないだろうか。もっと簡素化するべき時期と思う。

○オンラインで参加させていただきましたが、第6分科会は提案が1つで開始時刻が大幅に遅くの開会であったが、かなり後にチャットで分かったのもっと早く知らせてほしかった。

○前日準備、打ち合わせで待ち時間が長かったので、もう少し効率よく出来たら良かったと思った。

# 大会役員・大会実行委員一覧

| 役職名   | 氏名    | 学校名             |
|-------|-------|-----------------|
| 大会会長  | 原田 淳  | 島根・松江市立乃木小      |
| 大会副会長 | 長田 英子 | 山口・防府市立牟礼小      |
| 大会副会長 | 宗國 徳幸 | 岡山・倉敷市立倉敷第一中    |
| 大会副会長 | 稲村 徹  | 鳥取・米子市立福生中いずみ分校 |
| 大会副会長 | 平塚 靖男 | 島根・松江市立揖屋小      |

| 役職名      | 氏名    | 学校名         |
|----------|-------|-------------|
| 大会実行委員長  | 後藤 英興 | 島根・出雲市立西田小  |
| 大会実行副委員長 | 永見 正己 | 島根・出雲市立大社小  |
| 大会実行副委員長 | 内田 英二 | 島根・出雲市立稗原小  |
| 大会事務局長   | 福谷 和彦 | 島根・出雲市立出東小  |
| 大会事務局    | 勝部 孝  | 島根・出雲市立伊野小  |
| 大会事務局    | 高橋 兼造 | 島根・出雲市立さくら小 |
| 大会事務局    | 藤井 芳枝 | 島根・出雲市立多伎小  |
| 大会事務局    | 好川 光博 | 島根・出雲市立第二中  |
| 大会事務局    | 森山 剛宏 | 島根・出雲市立中部小  |
| 総務部 部長   | 小川 宏幸 | 島根・出雲市立荘原小  |
| 総務部 副部長  | 小林 真治 | 島根・出雲市立西野小  |
| 総務部員     | 石原 康博 | 島根・出雲市立斐川東中 |
| 総務部員     | 三原 雄治 | 島根・出雲市立斐川西中 |
| 庶務部 部長   | 川上 壮  | 島根・出雲市立湖陵小  |
| 庶務部 副部長  | 井上 伸治 | 島根・出雲市立窪田小  |
| 庶務部員     | 園山 正樹 | 島根・出雲市立佐田中  |
| 庶務部員     | 今岡 寿昭 | 島根・出雲市立湖陵中  |
| 庶務部員     | 板垣 恵  | 島根・出雲市立須佐小  |
| 研究部 部長   | 高見 亮一 | 島根・出雲市立平田小  |
| 研究部 副部長  | 加納 佳子 | 島根・出雲市立鰐淵小  |
| 研究部員     | 佐藤 忠司 | 島根・出雲市立平田中  |
| 研究部員     | 川瀬 達雄 | 島根・出雲市立向陽中  |
| 研究部員     | 岡村 朗  | 島根・出雲市立灘分小  |
| 研究部員     | 福田 秀治 | 島根・出雲市立国富小  |
| 研究部員     | 原 浩司  | 島根・出雲市立朝陽小  |
| 研究部員     | 原 綾郁  | 島根・出雲市立北浜小  |
| 研究部員     | 松本 博志 | 島根・雲南市立西小   |
| 研究部員     | 安達 裕介 | 島根・雲南市立海潮小  |
| 研究部員     | 須田 秀樹 | 島根・雲南市立吉田中  |
| 研究部員     | 津田由利恵 | 島根・雲南市立加茂中  |
| 研究部員     | 野津 道人 | 島根・雲南市立斐伊小  |

| 役職名       | 氏名    | 学校名                 |
|-----------|-------|---------------------|
| 研究部員      | 青木 拓夫 | 島根・雲南市立加茂小          |
| 運営部 部長    | 宮崎 圭司 | 島根・出雲市立多伎中          |
| 運営部 副部長   | 大樹 浩太 | 島根・出雲市立大社中          |
| 運営部員      | 山川 修司 | 島根・出雲市立遙堪小          |
| 運営部員      | 勝部 高良 | 島根・出雲市立荒木小          |
| 運営部員      | 難波 淳  | 島根・雲南市立木次中          |
| 運営部員      | 馬庭 利幸 | 島根・雲南市立木次小          |
| 会員部 部長    | 飯國 秀忠 | 島根・出雲市立上津小          |
| 会員部 副部長   | 石橋 俊政 | 島根・出雲市立浜山中          |
| 会員部員      | 石原 典子 | 島根・出雲市立大津小          |
| 会員部員      | 宮本 大志 | 島根・出雲市立神戸川小         |
| 会員部員      | 原 拓   | 島根・出雲市立高松小          |
| 会員部員      | 宮本 崇広 | 島根・出雲市立四絡小          |
| 会員部員      | 嘉藤真理子 | 島根・出雲市立みなみ小         |
| 会員部員      | 飯國 厚志 | 島根・出雲市立神西小          |
| 会員部員      | 吉廣恭由子 | 島根・出雲市立塩冶小          |
| 会員部員      | 松村 敏明 | 島根・出雲市立第三中          |
| 会員部員      | 阿川 美和 | 島根・雲南市立三刀屋中         |
| 会員部員      | 古田真一郎 | 島根・雲南市立掛合中          |
| 会員部員      | 打田 敦志 | 島根・雲南市立掛合小          |
| 会員部員      | 加藤 泰寛 | 島根・雲南市立田井小          |
| 会計部 部長    | 松原 広行 | 島根・出雲市立第三中          |
| 会計部 副部長   | 立原 哲也 | 島根・出雲市立高浜小          |
| リモート部 部長  | 井上 裕史 | 島根・出雲市立長浜小          |
| リモート部 副部長 | 曾田 史郎 | 島根・出雲市立塩冶小          |
| リモート部員    | 加藤日出夫 | 島根・出雲市立今市小          |
| リモート部員    | 有田 幸樹 | 島根・出雲市立北陽小          |
| リモート部員    | 嵐 真一  | 島根・出雲市立河南中・神戸川小若松分校 |
| リモート部員    | 廣野 克巳 | 島根・出雲市立河南中          |
| リモート部員    | 桑原 尚志 | 島根・出雲市立第一中          |
| リモート部員    | 北脇 訓  | 島根・出雲市立南中           |



# あ と が き

---

神在月を間近に控えた出雲の地で、第43回中国地区公立学校教頭会研究大会（島根大会）及び第35回島根県公立小中学校教頭会研究大会（出雲大会）を出雲市民会館とニューウェルシティ出雲を会場に開催しました。

本研究大会は、計画開始時の新型コロナウイルス感染症の状況などから、現地参集及びオンライン参加によるハイブリッド型の開催としました。秋の行事多端な時期にも関わらず、合わせて512名の皆様にご参加いただきました。

今大会は開催地が出雲市でしたので、出雲市教頭会が実務を担当しました。出雲市の教頭だけでは運営が難しく、雲南市教頭会にもご助力をいただきました。準備に関わっていただいた皆様の全て含めると、100名を超える人数となります。

講演講師のダスティン・ジョン・キッド先生には、「子どもたちの未来に求めるもの～外国語教育と異文化交流を通して～」という題名のもと、外国語教育や異文化交流のみならず、研究主題に合わせて「ふるさとの物語」ということに言及していただき、私たちに多くの示唆を与えていただきました。

また、分科会では研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり～ふるさとを学びの原点に、自立、協働、創造していく心豊かな子どもの育成～」のもと、提案発表をもとに各分科会で大変活発な協議や実践交流が展開されました。

終わりにりましたが、全国公立学校教頭会、中国地区公立学校教頭会、後援をいただいた皆様をはじめ、大会運営に携わった皆様、ご協力をいただいた皆様、そしてご参加いただいた皆様に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

来年度は、山口県で中国地区公立学校教頭会研究大会が開催されます。多くの会員の皆様と出会い、研修と交流を深めていけることを楽しみにしています。

第43回中国地区公立学校教頭会研究大会（島根大会）

第35回島根県公立小中学校教頭会研究大会（出雲大会）

大会実行委員長 後 藤 英 興

第43回 中国地区公立学校教頭会研究大会（島根大会）  
第35回 島根県公立小中学校教頭会研究大会（出雲大会）

# 大会集録

令和6年2月発行

編集人兼発行人 中国地区公立学校教頭会会長 原田 淳  
島根県公立小中学校教頭会会長 平塚 靖男

発 行 中国地区公立学校教頭会・島根県公立小中学校教頭会  
〒690-0866 松江市母衣町55 島根県教育会館内  
TEL・FAX：0852-27-8680  
E-mail：simatou5@galaxy.ocn.ne.jp

印 刷 所 有限会社 西村印刷



